

秋浦の歌（李白）

白髪 三千丈

愁に 縁つて 箇の 似く 長し

知らず 明鏡の 裏

何れの 処にか 秋霜を 得たる

白髪三千丈 縁愁似箇長
不知明鏡裏 何處得秋霜

解説 秋浦の地で、わが身の年老いたのを嘆いた詩。

語釈 ※三千丈Ⅱむろん実数ではない。非常に長いさまをいう。

※縁Ⅱ因と同じ。ゝのために。※似箇Ⅱこのように。

※明鏡Ⅱ澄んだ鏡。※秋霜Ⅱ白髪を霜にたとえた。

通釈 わが白髪は三千丈もある。うれいのために、こんなに長くなったのだ。澄んだ鏡の中にうつるこの秋の霜のような白髪は、いったいどこからやってきたものなのか。